

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、一般質問を始めます。

まず、今回の東日本災害、大津波により、とうとい命を失われた方の御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

福島県では原発事故で放射能漏れということで、今まで経験のない災害が起こっております。いまだ終息のめども立たない中でございますが、東北太平洋沿岸地域の一日も早い復旧、復興を願うものであります。

また、災害支援活動として市職員の方が12名派遣をされ、また、ボランティア活動に被災地へ行かれた8名の議員さん方、市長、市職員の方、合わせて11名の方に深く感謝を申し上げます。御苦労さまでした。

今回、質問に入りますが、武内ももちろんのことでございますが、武雄市一円、イノシシ被害等、大変農業者は困っておるわけでございます。今後のイノシシ対策につきまして、どのように対策を行っていただけるものか質問をいたしまして、第1番目の質問といたします。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

イノシシ被害の対策につきましては、今回、予算のほうにもお願いをしておりますけれども、ワイヤーメッシュ、あるいは電気牧さくの設置を市内一円やる計画をしております、皆さん方の御協力をいただいているところであります。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

イノシシ、大変被害が多いわけでございますが、次の1番と2番、1番はこれで終わりにして、2番もちょっとですね、今議会に提案されておる議案でございますので、常任委員会のほうで慎重に御審議をいただいて、飛龍窯の件に移りたいと思います。

2月の10、11（46ページで訂正）の2日間、飛龍窯祭りが開催されました。5月の11日にキルンの森運営協議会で内容の報告をいただきました。2月の11日は、雨と雪ということで大変な天気でしたが、武内保育園の園児さんが一生懸命雪の中に荒踊りを踊ってくれました。頭真っ白でございました。

また、武内町の各種団体の方々、市役所の職員、特に商工観光課の職員の皆さんには、前準備から当日、後片づけまで大変御迷惑をかけたところでございます。

また、町内に数カ所、臨時駐車場を設けましたが、その送迎と、また武雄町内からシャトルバスを走らせていただきまして、毎回とにかくいっぱいのお客さんが飛龍窯へ来ていただきました。運転手さんたちも、もう休む暇もないというぐらいのことでもございました。この

場をかりまして、お祭りを支えていただいた方に厚くお礼を申し上げます。おかげさまでもちまして、各地より多くの方がお見えいただきまして、灯籠の明かりを楽しんでいただきました。ことしは、特に若い方、若いカップルが非常に多かったように感じました。

そこで、今年の来場者数とか、どこら辺からどのようなお客さんがお見えになったか、わかれば教えていただきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

2月11日、あるいは12日の2日間の開催の人員ですけれども、来場者数は1万2,000名、11日の日に5,000名、それから12日が7,000名で、昨年より1.7倍、集客がふえているというふうなことであります。

アンケートによりますと、来場者の割合は、県内からの来場者は55%、武雄市内が17%と、それから佐賀市からの10%、それから県外からの来場者は45%ということで、特に福岡県、長崎県からの集客が伸びてきたというふうに思っております。

次回もぜひ行きたいというリピーターの方も85%を占めておりまして、この祭りが魅力あるイベントとしてだんだん定着してきているというふうに感じております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

私、先ほど2月の10、11日と言いましたが、11、12日の間違いでございました。すみません、訂正しとってください。

前3月議会で、窯の中で喫茶店をするのはまかりならんというような御意見をいただきました。合併前ですね、窯の中で結局、かまくら談義、夜なべ談義が行われておりました。そこには、県内の報道関係の方、有識者の方に参加いただいてやっと思ったわけでございます。そこでかまくら談義、夜なべ談義行われて、酒宴がされておったわけでございます。合併後は、そういう催しは行われておりません。ですが、喫茶店がコーヒーを出すのがなぜ悪いのか。これは、お酒よりは数段、私は健全だと思うわけでございます。皆さんどがんですか。そがん思わんですか。私はもう歯がゆうしてたまらんです。

そこで、年々その祭りも盛大になってきております。出店する店も、とにかく駐車場いっぱいというようなことで多くなってきておるわけでございます。そこで、お店の売り上げと、この祭りが武雄市に及ぼす経済効果、いかほどあるのか、どのようなところに経済効果があらわれたのか、御答弁をいただきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私もね、3月議会で谷口議員から、何ですか、窯の中ば喫茶店にすっとはどうですかねと、いうことを言われて、もう悲しく思いましたね。本当に谷口議員もさきの議事録で、私はいかがかと思えますねと、本当に悲しいですねと言われましたね。私はもっと悲しく思っていますよ。

というのは、もともと飛龍窯は、窯の利用については平成12年から17年まで、飛龍窯かまくら談義と銘打って、さまざま会食をしながら談義が行われとるわけですね。その中で、参加者は報道関係者の皆さん、観光協会、商工会議所、農協、旅行業者、窯元、武内公民館、キルンの森公園運営協議会、そして武雄市の皆さんたちが入るとんさっわけですよ、市長さんたちも入って。その中で、いろんなことが検討されたのが、今回の私たちの合併した後の飛龍窯祭りなんです。何でそこで批判ばせずに、私たちだけ言われんばいかんとでしようかね。もう私、わかりません。

その中で、経済効果とすれば、さまざまいろんな効果がありましたけれども、これが実際、私がおわああ言うよりは、（パネルを示す）これがカフェの上が入り口ですね、下がカフェです。私も行きましたけど、すごく多くの皆さんたちがいらっしゃいました。私は、別に酒がいいとか悪いとか、コーヒーがいいとか悪いとか、そういう議論にはくみしません。ですので、私とすれば、そういう皆さんが合意の上で、いろんな、例えば、武内町の魅力であるとか、窯の魅力を出すので、その足を引っ張ることはやめてほしいというふうに思っていて、経済効果は160万6,070円であります。

経済効果としては、来場者の市内宿泊率が去年は7%でした。7%が、ことしは16%と約2倍にはね上がっております。旅行関係者からの聞き取りでは、祭りの期間中はイベント参加の宿泊者が多くて、満室状態だったと聞いておりますので、これは本当にいい効果が出たと思っておりますので、これをさらにリピーターがふえる、それともう一つ、発信が今のところうまくいっていますので、これはそういうふうにしていきたい。

重ねて感謝を申し上げたいのは、これ、きょう、地元武内町からも傍聴に来られていますけれども、地元の武内町の皆さん、窯元の皆さん、観光協会の皆さん、そして、これ2月14日前後にしようと言ったのは、これは身内の話になりますけれども、うちの観光課の職員なんです。ですので、そういうアイデアをきちんと出して、それをみんなが一緒にやっという気持ちで、今、武雄は一つというふうの流れがあって、それを皆さんたちが多分お感じになっていると思いますので、この流れをさらに強化していきたいと思っておりますし、これは、一つは武雄市を代表するお祭りになるように、私たちとしても温かく議会とともに応援をしていければいいなど、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

市長から、力強い応援の言葉をいただきました。この祭りが、本当に武雄市の祭りになればと思っております。

また、経済効果もそのようにあるということでございますので、今後、もっとお客さんが来てもらえるようなことをやっていきたいと、窯を利用していきたいと思っております。

そこで、前回の質問の中に、窯内に土足で入るのはいけないという意見もございました。あそこに足袋はいて入れというわけにはいきませんので、どうしようもないと思います。ですが、今度の祭りのときに、この窯内の利用というのはいかがしておられたのか、御説明をいただきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

お答えします。

窯内においては、ミニ灯籠の焼き物体験、それから市内窯元の作品展示、それから灯籠、香炉等の展示即売、あるいは軽食等を提供する窯内喫茶店として活用をしたところであります。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

私はきのう、飛龍窯に行ってみました。窯に電気がついておりました。祭りの後、武雄市内の窯元さんの焼き物を展示して、いつもお客さんが見てもらえるようにしているんだということで、こいはよかことにやあと思いました。

それで、去年まではそういうことはなかったわけでございます。それで、ちょうど行ったときにお客さんがお見えになっておって、窯の中に入って、そして入ってよかですかと言ったけんが、あの網をちょっとよけて、一番下の窯に入ってもらったんですが、こがんとは初めてと、こういう大きな窯を見るのは初めてだと、中に入れるなんて思いもせんやっただ言うて、喜んで帰っていただきました。

それで、帰りしなに工房に寄っていただきまして、あのツリーの焼き物を、何なっとな買っていくんばいかなんねということで買って帰られました。こういうことがですね、一つ一つ、一番窯、二番窯に今展示してありますが、こういうことがやっぱり飛龍窯の宣伝につながっていくんだらうと思っております。ですから、そういうことができていけば、結局、灯ろう祭りにたくさんのお客さんが来ていただけると、リピーターとして来ていただけるということにつながっていくと私は考えます。

そこで、先ほど一番窯のところで喫茶店をされたということでございますが、その喫茶店だけの単純な売り上げというのですか、ブロックごとにと、それから喫茶店だけがこれくらいですよというようなことがわかれば教えていただきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

窯内の利用の一環として、第一の窯のほうで楼門朝市の出店者によってケーキ、あるいはコーヒーの窯内喫茶店を行いました。常に長蛇の列ができて、人気上々でありまして、利用者は377名というふうなことで、売上金は18万8,500円というふうなことになっております。

利用者からは、めったに入れない窯の中で想像を絶する高温で焼成を思い浮かべ、肌で感じながらお茶をするというふうなことで、大変よかったというふうなことをいただいております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

武内町も、これは町にとりまして一大イベントでございます。2年ほど前、私が質問したときに、武内町は大渋滞を起こすと申し上げました。ことしも少しは渋滞がございましたが、シャトルバスとかいろいろなことで、少しは緩和されております。今後ともいろいろと御指導をいただきながら、祭りを盛り上げていきたいというのはもちろんのことでございますが、来年に向けて飛龍窯実行委員会の委員長であります、会長でございます副市長に、今後の施策なり方向性なりをお尋ねいたしたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

前田副市長

○前田副市長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

先ほどありましたように、地元の武内町、あるいは市内の窯元、それから観光協会等で実行委員会をつくっております。ちょうど太田副市長時代から副市長が実行委員長ということで、今現在仰せつかっておりますが、この飛龍窯については、御存じのとおり、平成8年に有田のほうでありました焔博を記念して、武雄市内に窯をつくらうということで飛龍窯ができております。昨年、ことしの灯ろう祭りを見ていると、私もびっくりしております。飛龍窯ができた当時、ちょうど2回目に観光課に来ましたけれども、その当時はかなりお客さんが多くて、シャトルバスも満杯という状況でございまして、それを思い出すような情景が去年、ことしとあってございまして、特に今からは窯の利用はもちろんでございますが、今

現在、武雄市内、窯元ありますので、武雄焼の情報発信、それから、一番大きなのは、やっぱり市内にお客さんに来てもらって、宿泊施設に泊まってもらうというのが一番大事と思いますので、そこら辺のPRを、今から先も今まで以上にやりまして、武雄市の観光振興につなげていきたいということで、これについては、特に地元の武内町、あるいは窯元、そこら辺の協力、今後ともぜひお願いしたいと思います。今後とも盛大になるように頑張っていきたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

ありがとうございます。とにかく祭りが、これ1人、2人でできる祭りではございません。とにかく灯籠もあの1個1個、あの坂道に置いて、ろうそくをつけてという祭りでございますので、人手がかかります。それで、武内町の皆さんも一生懸命お手伝いをいただくということで、市も援助をひとつよろしくお願いを申し上げます。

続きまして、今度は武内公民館の建設について御質問をいたします。

御存じのように、現在の建物は鉄筋コンクリートの2階建てということでございまして、2階部分にトイレがないと。老人の方、身障者の方、上ったりおりたりが非常に大変であると。もうとにかく会議をしても、上ったりおりたりが大変やけん、もう欠席していっちょこうというような人もたくさんおられます。

また、その2階部分、今現在、雨漏りをいたしております。雨の日にはバケツを置いておかなければならないというような状態で、漏電とか、それから耐震性あたりも非常に心配されるところでございます。

このような中で、武内町町民の皆さんからたくさん公民館建設をやってくれというような要望がありまして、2年前より公民館建設期成会が立ち上げられまして、協議を重ねるとともに、市当局にもいろいろとお願いをしてきたところでございます。そのときの市よりの返答は、基本的には町民の総意が大前提であるということで、それももっともなことでございます。期成会といたしましては、最近建設されました県内5カ所ぐらいの公民館を視察いたしまして、立地条件、面積、それから建物の構造とか特徴などを協議し、研修してメリット、デメリットを検討してまいりました。

現在の場所というのは、旧武内町の村役場の跡でございまして、小学校とか郵便局、農協、保育園というところに非常に近いところにあり、場所としては一番いいかなと思うわけでございます。しかし、いかんせん、平家建てのバリアフリーという建物を考えますと、どうしても敷地面積が足りないと。そうすれば、どこかに移転をしなければならないんじゃないかと。武内というところは水害が一つ懸念をされるわけでございます。そして、公民館をつくらすれば、交通の利便性も考えなければならないという、いろいろな問題もございます。

そこで、候補地の選定など、市当局におかれまして御指導をいただきまして、公民館建設に向けて進んでいきたいと思っております。

また、武内町民の悲願でありますので、市当局におかれまして、土地の選定、購入とあわせて一日も早い公民館建設をお願いいたしたいのですが、市当局の考え方をお聞かせいただきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、はっきりさせておきたいのは、我々は御指導する立場じゃありません。その上で、私が混乱しているのは、もうこの問題にかかわって、私も2年半ぐらいあるんですけど、ある方はもう用地は私が決めますけん。で、その決めたとでよかかなと思ったら、ある方は、いや、ここは水害があるからだめですと言うので、もうカメレオンのように変わるわけですよ。これじゃ、だめですね。

ですので、まず、武内町の皆さん方をお願いをしたいのは、今度、白濱さんが会長に、どこにおられるかわかりませんが、会長になられましたので、まず、用地選定をしっかりとほしいということですね、用地選定を。その上で、私たちとしても、これは前田副市長も教育委員会も同じなんですけれどもね、今の場所に建てかえるというのは、それは無理ですね。それはおっしゃるとおりですよ。ですので、新たな用地を確保することについては、それはもう地元の皆さん方にぜひお願いをしたいというふうに思っていますし、私は白濱さん、それ、できると思います。その上で、建物とかね、それはまあ、補助金も低額ながらありますけれども、それはもう前向きに考えます。用地選定がまず第一。

ただね、やっぱり僕、住民訴訟を受けている立場なんですね。だから、余り私は偉そうなことは言いません。ですので、その財源確保もきちんとしながら、もう訴訟も大分おくらせていますので、もう一日一日そっちのほうにお金がかかるわけですよ。ですので、私として限られた税金を武内町の皆さんたちに使いたいと思っておりますよ。ですが、私の置かれている状況も、ぜひ心中を察していただければと、このように考えております。気持ちとしては前向きであります。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

公民館建設というのは、高額な金がかかるわけですので。きょう言うてすぐということは、まず無理だと思っておりますが、とにかく武内町町民がどうしてもつくってほしいということでございますので、市長からも前向きな答弁をいただきましたので、これをもちまして、私の一般質問を終わりたいと思っております。